

図書だより

白露（はくろ）

夏の暑さが一転、朝夕は少し肌寒いほどになりました。こんな時期の朝方には、草に露が降りているのを目にすることがよくあります。夜には虫の声もきこえ、だんだんと秋に近づいています。また9月に入り、多くの果物が収穫されるようになりました。代表的なものに梨やブドウがあります。この白山市でも『幸水』や『豊水』などの梨がつくられています。美味しいものをたくさん食べて、9月からの学校生活を楽しく送りましょう。



新しく入った本の案内

『朗読のススメ』

永井 一郎／著

声だけで作品を表現するのは難しい。本書では、従来とは全く異なる方法で、その秘訣を教えます。

『自分』の壁

養老 孟司／著

「本当の自分」を探すよりも、「本物の自信」を育てたほうがいい。脳、人生、医療、死、情報、仕事など、あらゆるテーマについて、頭の中にある「壁」を超えたときに、新たな思考の次元が見えてくる。

『中高生のための「かたづけ」の本』

杉田 明子・佐藤 剛史／著

何がどこにあるかわからない、いつもモノ探しから始まる・・・そんな毎日をなんとかしたいあなたへ贈るかたづけ力アップのための一冊。

『ナウシカの飛行具、作ってみた』

八谷 和彦／著

なぜ、どのように、架空の一人乗り機“メーヴェ”を実現させたか。10年をかけたプロジェクトの全容。

『青天の霹靂』

劇団ひとり／著

学歴もなければ、金もなく、恋人もいない35歳の晴夫。ある日、テレビ番組のオーディションではじめて将来への希望を抱く。だが、警察からの思いもかけない電話で、晴夫の運命が・・・

『3年7組食物調理科』

須藤 靖貴／著

県立新居山総合技術高校の食物調理科では、料理に明け暮れる毎日を過ごしている。3年の秋を迎えた恵志たち。集団調理で先生方にお弁当を食べもらう「営業」が目前だ。当日の朝・・・続きを読むは読んでからのお楽しみ！

石川県立松任高等学校図書室

平成26(2014)年9月発行

今月より、先生方からみなさんへすすめする本やメッセージを載せていくよ。

第1回は校長先生です。

「読む愉しさ」

校長 中川 雄一

読書の愉しみは、一言でいうと「俗世間からの隔絶」「リフレッシュ休暇」のようなものです。部屋で寝転び、文字を目で追いながら未知の世界への冒険か旅行でかける。

小説を読んでいるときは主人公の生き方を追体験し自分の生き方について考える。新書を読めば知識が増え、社会問題について自分なりに考えるようになる。読めば読むほどいろんなことに繋がり、さらに次への読書への意欲が増していく。

私は、読んでいるときは夢中だが、読み終わったときの余韻がいいと思っている。



他にもいろいろ入っています。

動物愛護週間（9月20日～26日）

図書室にも動物に関する本があります。興味のある人はぜひ図書室に来てください。

『ボクたちに殺されるいのち』

小林輝幸／著

ペットの命は、人間の命よりも軽いのですか？年間28万匹の犬猫がボクたちの都合で殺されている。

『それでも人を愛する犬』

田辺アンニイ／著

土手の犬にも幸せを！ホームレス達と土手で暮らす犬を見かけたことから、人生が大きく変わった著者。犬猫の保護という、自分には遠い世界と思っていた活動に明け暮れる毎日と、出会った犬や猫たちへの想いを綴る。

名作まちがいさがし

5ヶ所まちがいがあります。

アンはクラスメートのギルバートからお下げ髪を引っ張られ、「にんじん！」とからかわれます。怒ったアンは石盤をギルバートの頭に打ち下ろしてしまいました。

